

吉井川水害タイムライン検討会

タイムライン作成の基本的な考え方について

タイムラインとは（振り返り）

◆ タイムライン（防災行動計画）とは・・・

住民の命を守る、さらに経済被害を最小化することを目的に、「いつ」「何を」「誰が」の3つの要素を、防災に係わる組織が連携し、災害に対するそれぞれの役割や対応行動を定めたもの。

タイムラインを構成する 3つの要素

「いつ」 → 主な災害の発生時点から逆算した時間帯

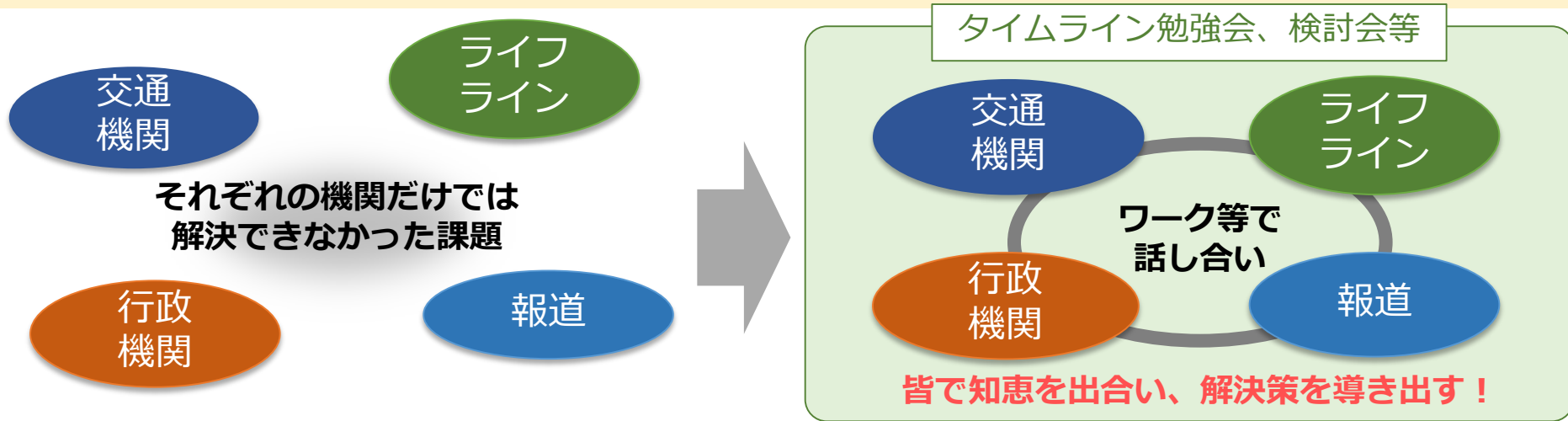
「何を」 → 事前に行う防災行動内容（あらかじめ調整し決める）

「誰が」 → 防災機関や組織または住民

タイムラインの作成で目指すこと

これまで個別で対応していた**防災に対する課題**について、**吉井川流域に関わる関係者全員で知恵を出し合う**ことで解決策を導き出し防災対応力を向上させる。

⇒本日は、各機関が抱える**課題について意見交換し解決策を導き出す**。



例えば・・・

課題や疑問

- 水害を想定した職員の参集計画を作成したいが、参集時にはすでに道路冠水などで通行止めになっているだろうか？ (行政機関、ライフライン)
- 様々な機関から防災情報が発表されているが、集約された情報はあのだろうか？ (報道)
- 車両の退避をしたが退避場所も浸水する恐れがあり場所がない。 (交通機関)
- 大規模避難の際に移送手段が足りていない (行政機関)

情報共有

- アンダーパスは、雨量基準で通行止めになっている。 (行政機関)
- 台風の暴風域が次の日に直撃する場合、始発から運行を止める。 (交通機関)
- 県で自治体から情報を集めてのホームページアップしている。 (行政機関)
- 防災拠点に車両の退避場所がある (行政機関)
- 浸水の恐れがある場合は、車両は使わずに退避させる。 (交通機関)

解決策

- 台風予報、雨量を基に参集を判断しよう。 (行政機関、ライフライン)
- まずは、県ホームページを見に行こう。タイムラインで各機関の役割を確認しよう。 (報道)
- 防災拠点に車両を退避させて、その車両を大規模避難の移送手段としよう。 (交通機関、行政機関)

逃げ遅れゼロ、社会経済被害最小化に向けた タイムライン作成・運用の着眼点

- 梅雨前線や台風による水害（高潮・洪水・内水・土砂災害）に対する**逃げ遅れゼロ**及び**社会経済被害の最小化**に向けて、以下の観点に着目したタイムラインを作成し運用する。
- 作成・運用に向けて、**各機関でタイムラインの検討に必要な部署**の確認や調整をお願いします。

➤ 広範囲におよぶ市街地の水没に備えて対応

→住民の的確な避難行動に向けた対応の実施

- 行政：複数の河川情報の把握、避難情報の判断・伝達、要配慮者の避難、被害軽減に向けた排水施設の操作
- ライフライン事業者：被害を軽減させる浸水防止対策の実施
- 鉄道、バス運行業者：避難者の移送支援、利用者の安全確保
- 報道：避難情報の住民への伝達 など

➤ 氾濫流の貯留による長期湛水に備えた対応

→長期避難に備えた事前準備の実施

- 行政：行政機能の確保、避難所運営体制の確保、要配慮者の健康管理、排水ポンプ車による排水
- ライフライン事業者：避難所への電力供給、給水、通信確保
- 鉄道、バス運行業者：車両の退避
- 警察・消防・自衛隊：救出・救助体制の確保、孤立者の救助活動遣 など

➤ 浸水や土砂災害による交通・ライフラインの途絶に備えた対応

→早期の復旧活動を行うための多機関連携

- 行政：アクセスルート確保（排水、道路啓開）
- 鉄道事業者、道路管理者：被害に備えた代替輸送手段、代替ルートの検討
- 警察・消防・自衛隊：交通途絶を見越した部隊配置、空輸による物資輸送
- ライフライン事業者：交通途絶を見越した応急復旧体制の確保 など